



保育士養成校との意見交換会

2.総会・保育所長研修会

3.第57回静岡県保育研究大会

4.各分科会報告(1～8分科会)

12.県保育研究大会に参加して

14.新規採用予定職員研修会

16.保育士養成校との意見交換会

18.各研修報告

19.専門委員会報告

20.支部だより

📷 写真提供:浜松市 入野こども園

平成28年度

静岡県保育所連合会総会 並びに 保育所長研修会

開催

期日 平成二十八年四月二十六日
会場 静岡市民文化会館

平成二十八年年度静岡県保育所連合会総会は、静岡県健康福祉部福祉こども局・河森佳奈子局長、静岡県社会福祉協議会・杉田勇三常務理事等、多くの来賓の皆様をお迎えして、静岡市民文化会館において開催されました。

最初に後藤弘明会長の挨拶の中で「四月に発生した熊本地震において、現地ではいまだに休園が続いている。県保連としても募金活動等協力をお願いしたい。子供の最善の利益の保障と質の高い保育を理念とした新制度が始まって一年がたったが、待機児童の問題は混迷を深め、受け



皿の増大は保育士不足を加速させている。最低基準緩和等の意見もあるが、乳幼児期における保育教育の効果が最も大きいという研究結果もある。人生で一番重要な時期を過ごす施設の職員は、その仕事にやりがいやプライドを持って欲しい。そのための処遇改善はこれからも必要であり、皆さんの協力の下、これからも県保連として現場の声を届ける努力

を続けていきたい。」と力強く挨拶されました。その後、河森局長、杉田常務理事からもお祝いのお言葉をいただきました。



次に総会に移り、議長に伊豆の国市慈恩保育園・土山惟之園長、副議長に静岡市立中田こども園・鈴木靖子園長を選出し、議事に入りました。議案として第一号議案・平成二十七年年度事業報告・決算報告、第二号議案・会長指名理事の承認、第三号議案・平成二十八年年度事業計画・予算案の議案が審議され、承認されました。役員交代の報告の後、新規入会の保育所、子ども

園として十五園が紹介されました。総会終了後、引き続き保育所長研修会が開催されました。講師には社会福祉審議会児童部会保育専門委員会として活躍されている関西大学人間健康学部教授、山縣文治氏をお招きし、「こども子育て支援新制度とこれからの子育て支援」というテーマの元に一時前半にわたってお話しをいただきました。

これからの子ども・子育て支援施策の課題を考えると、今後二十年の内に約半数の市町村が消滅の可能性があり、少子化の加速と人口の集中化、待機児童問題、地域子育て支援の重要化などが挙げられる。その中でどう生き延びるのかを考えると、どういう方針で経営するか、何を利用者にアピールするか等が重要な要素になるとして、保育園・認定子ども園・幼稚園について比較しながらそれぞれの施設の目的や子育て支援の位置付け、職員の業務、それぞれの指針の内容などについて、どこに違いがあり、どこが同じなのか。また、



今後が変わってはいけない姿勢や視点についてご講義いただきました。大変刺激的な問題提起をいただき、改めて我々の置かれた現状と今後の課題への対応の重要性を再認識させていただいた講演でした。

第五十七回

静岡県保育研究大会

平成二十八年五月二十五日(水) 浜松市



静岡県保育研究大会は、しばらくの間、静岡市で開催していましたが、今年度より各支部で一年ごとに東部・中部・西部の会場を持ち回りで行うことになりました。

今年度の開催担当は西部支部が行い、会場を浜松市のアクトシティ浜松で開催しました。

当日は、静岡県の西部での開催で参加人数が懸念されましたが、役員を含め五八八名の参加者により、盛大に実施されました。

子ども・子育て支援制度が施行され、一年が経過し、保育園・こども園への期待はますます膨らんできています。



待機児童問題や保育士不足等、問題もまだまだ多く残っていますが、質の高い保育を目指し、子どもの最善の利益を保障する明確な方向性が必要となっています。

今大会も保育の質の向上を目的とし、県保育所連合会、県保育士会から選出された代表が八つの分科会で研究発表を行いました。参加者は熱心に聞き入り、その後は質疑や活発な議論、意見交換を行い実りのある大会となりました。

保育研究大会が滞りなく、また盛会裏に終了できましたことは、運営に携わっていただいたすべての関係者の方々のおかげであることと深く感謝申し上げます。

第一分科会

テーマ 【新たな時代の保育実践

～すべての子どもにむけて～】

発表者 ①裾野市立深良保育園

園長代理 根上 知子

②藤枝市ふじの花保育園

主任保育士 寺尾 清乃
保育士 濱崎 美佳

③湖西市立新居保育園

主任保育士 田村 仁美
主任保育士 池谷 広美

議長 浜松市立権現台保育園

園長 中山 郁子

助言者 静岡県立大学短期大学部

教授 漁田 俊子

記録者 浜松市立鴨江保育園

園長 太田 孝子

発表(一) 園児一人ひとりを大切に保育

～主体的に活動できる子どもを

目指して～

近年の子どもを取り巻く社会情勢の変化による園児の低年齢化、長時間保育の現状をふまえ、一人ひとりに目を向け、今保育園に求められているものは何かを考えた。そして、年齢ごとに「安定した生活」「ルールのある遊び」「話を聴ける子」をねらいに各年齢部会での検討、事例作成、5カ園の情報交換を重ねた。保育者の援助が必要な子についての

実践から、発達に沿った育ちの援助の重要性、一人ひとりが大切にされることで愛着関係が築かれ、信頼感や安心感を持ち、主体的に生きていく基盤となることを学んだ。

発表(二) 豊かな心を育てる遊びやかかわり

～温かな保育の実践と家庭への発信～

豊かな心には安心感や人との触れ合いが大切と考え、保育の充実と子育て家庭を支えることをねらいに研究した。保育の質の向上を目指した保育観察、月一回の各クラスの実践報告を重ね、より具体的になるよう年齢別の仮説をたてたことで、発達段階を的確に捉えることが信頼関係、安心感を生み、意欲につながることを学んだ。また、家庭への発信の工夫は、親子が触れ合うきっかけ作りに役立った。保護者に信頼され、どの子どもも活動できる場になるよう今後も努力したい。

発表(三) 人とのつながりを感じ思いやりを

もって遊ぶ子をめざして

～わらべうた・手遊びを通して～

乳幼児期には、人と人が触れ合ったり、関わりを深めたりする体験が求められる。情緒の安定を図り、思いやりの気持ちをもつ保育の工夫を目標に研究した。『わらべうた』を取り入れることで、一対一での触れ合いに楽しさを感じ、安心感を持って遊べるようになり、友だち同士でも自然と『わらべうた』が始まり認めたり誘ったりする姿が見られた。保育者も年間計画から見通しのある活動

展開ができ、保育者の役割を再認識できた。保護者への啓蒙を今後も続け、優しく穏やかな気持ちで子どもと向き合っていきたい。

助言者より

年齢別のねらい、わかりやすい実践で良い発表だった。家庭への発信や啓蒙が多くなったのも最近の傾向である。三才までに神経細胞が構築される為環境が重要である。家庭で育つべき愛着の不足を補うのが保育園で、スキンシップ・わらべうたを使って愛着関係が築けた。「話を聴くこと」がすべてに繋がる根っこであることにも注目したい。

自分の前の子どもと誠実に向き合い、小さな声かけや思いに共感し、包容力、寄り添う気持ちを持ち、学問的根拠もある保育者であることが大切。熱い思いを持ち続けよう。



第二分科会

テーマ 【配慮を必要とする子供や家庭への

支援にむけて】

発表者 ①三島市立青木保育園

主任保育士 岩見 真紀

三島市立緑町佐野保育園

主任保育士 渡邊 和絵

②静岡市 城北保育園

保育士 松木公美子

保育士 谷河 麻里

③浜松市

遊歩の丘保育園

主任保育士 藤田真知子

保育士 前澤 実紀

議長

裾野市

富岳南保育園

園長 杉山 延江

助言者

静岡大学教育学部

教授 香野 毅

記録者

裾野市

富岳キッズセンターあい

園長 橋本 正美

発表(一)

配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

外部機関との連携とその子に

合わせた支援

であり、外部機関との連携も大切。最初の気づきから個別の指導計画の作成、アセスメント、課題、短期・長期目標の設定、評価し、指導の改善を全職員で検討する。職員と外部機関と連携しながら支援を進め、職員との信頼関係を築き、支援を継続し、生きやすい環境を周りの人が作りあげることが大切である。

発表(二) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

専門機関との連携と保育実践

家庭への支援、専門機関との連携をとる中で保育者としていかに寄り添い、支援を行うべきか研究を進めてきた。これまでの支援方法をより良く明確にしていくこと。保護者との相互理解を図る工夫として連絡ノート、元気カードを使用し保育園での様子を伝えていく。個別支援では事例を上げ研究を進め、発達障害者支援センターに支援方法を指導し、全職員が同じ視点で子どもとかわる重要性、専門機関との連携で子どもや保護者の支援を行う大切さを実感する。

発表(三) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

気になる子の未来を見据えて

子どもを取り巻く環境が変化し、その中で保育園の役割、対応、保護者に伝えることの難しさ、支援の在り方を考え直し配慮が必要な子どもの将来を見据えるとはどういうことか考え直した。家庭支援の要となる期間が

変わっても途切れない支援が必要であり子育てに困ったとき相談できる場になることを目指していく。研究から繰り返し取り組むことが必要で計画、実践、評価を何度も行っていくと課題、目標が明確化され職員間で共有化することができた。今後も療育機関、小学校と連携して援助を進めていきたい。

助言者より

年々発表の内容や支援の充実度が増し、ここ数年理解と対応が進んできた気になるお子さんが多様に増えている。保護者との連携と気づきへの支援をしていく。一つでいいから共通のテーマを作ること、愛着の問題を抱えた子どもを担当する難しさがあり、周囲の保育士の理解が必要、また地域には相談機関があるので園(担任)だけで抱えないことが大切である。保育者の顕著は、保護者の顕著とよく似ていると思う。



第三分科会

テーマ 【保育者の資質向上を図る】

発表者 ①伊豆の国市 ちとせ保育園

園長 小林弘之介

②静岡市立服織こども園

保育教諭 嶋尻絢里

③菊川市 河城保育園

園長 岡部 雅子

議長 焼津市 たかくさ保育園

園長 村松 幹子

助言者 常葉大学

準教授 山本 睦

記録者 焼津市 明星保育園

保育主任 櫻井 英世

発表(一) 保育者の資質向上を図る

～職員研修のあり方について～

資質向上のための主な取り組みとして、一、自己評価チェック二、園内研修（園内研修のプログラムと実践）三、研修参加によるポイント制度四、研修内容の実践を行っている。保育者は日々の仕事に追われ、自主的に外部研修会に参加してスキルアップを図ることは難しい。そこで法人内の研修プログラムとは別に自ら進んで外部研修会に参加する職員にはポイント制を取り入れ、学ぶ意欲と学んだ内容を保育の中に取り入れ発揮できる環境を整えている。これを継続し他の取り組みと合わせて、より充実させていきたい。

発表(二) 保育者の資質向上を図る

～地域の自然を生かした保育実践より～

身近な自然と触れ合う中で喜びや驚きなどの心の動きを含めた「感じる力」を育むために、保育者は何を大切にし、子どもにどう寄り添っていくかについて研修を行っている。事例を基に意見を出し合う中で、子どもの気づきや発見に対する保育者の働きかけの大切さを再認識し、自分の保育を振り返る機会となった。「自然とのふれあい」をテーマに研修を重ねることで、自然と関わる子どもの姿の捉え方や保育の手立てについて学び、保育者一人ひとりの意識が高まっていった。

発表(三) 保育者の意識向上を図る

～支援を必要とするこどもの保育を通して、職員の意識向上をめざす～

ここ数年支援を必要とする子ども達について専門機関と連携することで、子ども達の過ごしにくさやこだわりについて学び、実践に生かしてきた。また、幼児期だからできる支援、集団だからこそできる支援があるはずだと試行錯誤していくうちに、障害児、健常児にこだわらず、「子どもの行動には必ず意味がある」ということを常に念頭に置くことの大切さに気付いた。そして、子ども・保護者・保育士の三者が一体感を持つことによつて、子ども目線の保育が展開できる。話し合いを繰り返すことで自らを高めていき、園全体の組織力の向上、資質の向上につながっていくことを改めて強く感じた。

助言者より

キャリアを継続し経験年数に応じた力をつけていく為に、研修が目された。しかし、キャリアを支える研修は元々保育ができる人の資質向上にしかならないという調査結果が出ている。これを踏まえ園の中の研修について考え直す必要がある。また、研修の目的の一つに自己効力感を育て、職場に自分の居場所を作ることが上げられる。幼児教育でやらなければならないことは、メタ認知力の養成と社会性の発達。すでにやっている実践を意識化、体系化、文章化することで実践が大きく変わっていく。



第四分科会

テーマ 【地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて】

発表者 ①富士市立岩本保育園

副主任保育士 鈴木 秀世

②吉田町立すみれ保育園

保育士 増田 由佳

③いわた保育士会 保護者支援部会

磐田市 いずみ第二保育園

保育士 大場 美歩

広瀬保育園

保育士 平井孔美佳

議長 浜松市 市野与進こども園

園長 渡邊 啓子

助言者 静岡英和学院大学

准教授 永田恵美子

記録者 浜松市 市野与進こども園

主幹保育教諭 上野 恵弓

発表(一) 子育ての喜びや楽しさを

実感できるようにするために

～保育所利用家庭

地域の子育て家庭に向けて

「子ども子育て支援法」に基づき、地域子育て支援における園の役割や機能を活かした支援のあり方についての研究を行った。現状把握を基に「在園児家庭」と「在宅児家庭」に着目し、それぞれ「一日保育体験」「あそぼう会」「出前保育」等、様々な取り組みを

行ってきた。その中で保護者は、子育ての悩みや不安を共有出来る場を求めている事が分かった。今後も園の特色や機能を活かし、地域に根ざした保育園づくりを目指していく。

発表(二) 地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて

～親子をつなぐ環境づくり～

近年、子どもに対しての関わりに不安を感じる保護者が増えていることから、子育ての楽しさを感じてもらえるよう「親子をつなぐ」をテーマに取り組んで来た。園内に「親子製作コーナー」「絵本コーナー」「つぶやき紹介」等を実施したことで、親子の会話が増えたり、保護者同士が悩みを共有し合う場にもなった。これからも子育ての楽しさを分かち合い、親子の関わりがより充実するようなきっかけ作りを続けていきたい。

発表(三) 地域の保護者支援の充実

～保育所利用家庭

地域の子育て家庭に向けて

子どもを取り巻く家庭環境の変化から、保護者は育児と家事の両立への悩みがあること、そして平日は就労している為、子どもとの関わりが少ないことがアンケートを通して分かった。そこで自然に触れて遊ぶ方法や場所、子育ての悩み解決策等が紹介された手作り冊子「きらきら」を作成し配布した。

結果、冊子を活用し関わる時間が増えた等変化が見え始める。今後は地域の保護者への

支援も視野に入れ、子育て家庭に寄り添った支援を目指していく。

助言者より

それぞれ地域の特色に合った取り組みの良さが十分伝わってきた。その中で更により良い実践研究をするには、やはり研究テーマを決め、「背景」「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「課題」の流れで記述を行うと、よりいっそう改善点が見つかり、次の実践に活かすことが出来る。



第五分科会

テーマ【家庭や地域との連携による

食育の推進】

発表者 ①函南町立西部保育園

主任保育士 羽入 久子

主任保育士 富岡 明子

②静岡市 有度十七夜山保育園

保育士 柳原 美里

③掛川市 おおぶち保育園

主任保育士 大石 静江

保育士 田中 松美

議長 御殿場市 双葉保育園

園長 勝又 秀文

助言者 日本大学短期大学部

非常勤講師 吉田 隆子

記録者 御殿場市 双葉保育園

保育士 鈴木貴美子

発表(一) 家庭や地域との連携による

食育の推進

「心も体も健やかに育つ子をめざして」
行儀・姿勢や、食器・箸・スプーンの持ち方といった気になる点に園児の個食化が影響していると考えた。保護者との協働を軸に年齢別食育目標を設定し、個を追った分析を行い、食材及び食事のマナーに関する取り組みを充実させる中で一定の成長が見られた。

各家庭の持つ関心度や価値観の違いに難しさを感じるが、今後は園内の取り組みを工夫

し環境作りや活動を見直して、命をいただく感謝の気持ちにつなげていきたい。

発表(二) 家庭や地域との連携による

食育の推進

「楽しい雰囲気の中でおいしく食べる」

日々の給食の時間を「楽しい雰囲気の中でおいしく食べる」ために保育士はどのような環境を設定し、関わりをすればよいか、エピソード記述の中から研究を進めた。一緒に食べている友達との言葉のやりとりや、笑いあう表情やしぐさこそが楽しい雰囲気であり、食の興味へと繋がる。保育士の一方的な「食べてほしい」の思いではなく、子どもが自ら「食べたい」と思えるような関わりや、おいしく食べてほしいという思いを共有する家庭と園、調理師、栄養士との連携が食を営む力の基となると感じている。

発表(三) 家庭や地域との連携による食育推進

「あそびを通して、食べる機能の発達

支援をする」

子ども達の食事に関する課題を下に、年間食育計画を作成した。その際、家庭や地域との連携の強化に加えて、あそびを通して、口腔機能の発達による嚥下や咀嚼、手指・手首の機能の発達によりスプーンや箸を正しく持つ、体幹機能の発達により落ち着いて座って食べられる。といった食べる機能の発達を促すことを目指した。今回の実践により保育者の視点がより専門的になり、一人ひとりに

合った発達支援を行うことが出来るようになり、職員の意識や積極性も高まった。

助言者より

家庭、地域との連携による食育研究の進め方として、①マナー 個食が多くなった今は、モデルを見ながら食べるのは園だけになりつつある。②連携 食物と生産者を繋げる。調理師・栄養士と繋げる。③どのように食べ物が出てくるか、原材料・添加物等を知り健康へ関心を持つ。④外部の力を借りる。色々な人とネットワークを作る。⑤住んでいる土地を好きになる。地域の生産物・生産者との連携になる。といった視点が考えられる。つまり食育というのは、毎日毎日繰り返して行う、生涯を通じた生活の営みである。



第六分科会

テーマ【子どもたちのより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク】

発表者 ①熱海市 多賀保育園

副園長 原田 昌徳

②静岡市立高松こども園

園長 竹下 由利

③浜松市 はあもにい保育園

主任保育士 松岡 公美

主任保育士 今村 事美

議長 掛川市

認定こども園こども広場あんり

副園長 杉村須美子

助言者 常葉大学／浜松大学

准教授 田中 浩之

記録者 掛川市 葛ヶ丘保育園

園長 相馬 良正

発表(一) 子どものより良い育ちにむけた

関係機関とのネットワーク

～保育園・幼稚園等との連携と協働～

この研究をきっかけに同じ小学校に通う事になる地域の幼稚園との連携を再開した。当日は運動遊びを通してお互いに刺激され、普段見られない子どもたちの色々な姿を見ることができた。今後の課題は続けていくことである。地域の専門機関とも連携をとり、共通理解のもと一人一人の成長に配慮した切れ目のない支援を、保育の振り返り、記録を残し

評価し改善を図るといふ(PDCAサイクル)を繰り返しながら行っていきたい。

発表(二) 子どものより良い育ちにむけた

関係機関とのネットワーク

～多様な機関との連携と協働～

地域・専門機関・小学校の3つの大きな連携をもとに研究を行った。

この研究を行って、子どもたちのより良い成長のために何が考えさせられた。

地域の人々の暖かな見守る眼。色々な特性を持った人を受け入れる社会。このようなことを共通理解のもと多方面の人と手を取り合

っていくことで様々な活動に繋がり、職員の資質の向上にもつながった。

発表(三) 子どものより良い育ちにむけた関係

機関とのネットワーク

～気になる子の成長を支える

機関との連携～

配慮が必要とする子への園内ネットワークの構築。担任を中心に園長、早番、遅番、パート、職員全員が情報を共有し連携をとっていく。園内ネットワークがしっかりして情報が共有されることで、保護者への安心へ繋がりが、信頼関係が生まれた。保護者と保育者との問題共有のためにも共通理解が大切。園から積極的に行事の参加を促したり、子どもの様子を話し合いながら、さらに保護者との理解を経て関係機関との連携が取れるようになり、早期の療育へつながった。

助言者より

体験を経験へ昇華させていく手伝いをする。ことが保育者の最も重要な役目である。そのためには体験によってどんな事に気づいてほしいのか、何を感じて、発見してほしいのかを明確にしておく必要がある。

研究を進めていく上でテーマの主語をどう見出していくかはとても重要な事で、どの発表者も自分たちの園に合った主語を見つけて研究し、先生たちの体験を経験に昇華させてくれていたので、素晴らしい一言です。



第七分科会

テーマ【保育の社会化にむけて】

～保育の営みを

いかに社会に発信するか～

発表者

①裾野市 さくら保育園

主任保育士 松浦 陽子

②静岡市 清水みらい保育園

園長 木村 緯歩子

③磐田市 広瀬保育園

園長 武内 秀樹

議長

三島市 白道保育園

園長 土山 雅之

助言者

常葉大学短期大学部

教授 鈴木久美子

記録者

三島市恵明キッズクラブレτζ

園長 杉村 太陽

発表(一) 家庭と連携した子育て

～保育園をより理解してもらうために～

裾野市では公立五ヶ園私立四ヶ園の保育園が合同で保育園をより市民に理解してもらうために毎年「保育生活展」を開催している。各保育園が展示、遊びコーナー、ショートタイム等出し物を考え、子育て家庭、園児、未就園児、卒園児が毎年楽しみに来場している。子育て支援の充実や目的が変化している中で、二五回に渡り市内の保育園が同じ目的をもって開催してきた「保育生活展」において今まで継続してきたものをどのように充実

し、展開していくのか、又、新たに発信できることはなにかなど考えていきたい。

発表(二) 保育の社会化に向けて

～保育の営みをいかに発信するか～

静岡市私立保育園連合会広報委員会では「誰に、何を、どのように」発信しているのかを明らかにするため広報委員会十二ヶ園の取り組みや発信方法を調べた。結果、「地域の行事や活動に保育園として参加し、地域の方と交流している事例」「自園の行事や催しに、地域の方の参加を呼びかけ、地域の方と交流している事例」があった。地域の行事、自園の行事への参加を通じて地域とのより良い交流の仕方を模索し、子どもにとって社会性や人間力を育てる源になるように地域と保育園とが共に育ち合える場をつくることこそが大事だと考える。

発表(三) 保育の社会化に向けて

～保育の営みをいかに発信するか～

豊岡地域に唯一の保育園で、お寺の保育園として親しみをもって呼ばれている。地域住民に保育園の活動を伝えるために地域のお祭りでの鼓隊の演奏や、運動会へ敬老会を招待、年四回の広報誌「えがお」の発行、小学生との交流等も行っている。又、ホームページを活用し、行政、支所等のリンクのはりつけや保育園の活動PRも行っている。地域にとっての子育て支援の専門機関である保育園を一つの社会資源として認識してもらうことを目

的とし、利用者が期待をもって保育園を利用できるようにしたいと思っている。

助言者より

本分科会のテーマが極めて自覚化された三発表であった。発表一は、市の全公私園が合同で発信し続けてきた実践報告、発表二は私立園連合会の共同研究、発表三は地域の核である寺を母体とした園の実践報告と、活動・発信の単位が単体、私立園連合、公私一体とそれぞれであることが大変興味深く、状況に応じて様々な主体として発信できうることが確認された。また日常の保育、例えばお散歩もまた発信の一つであることを会場全体で認識しあい、日々の保育の営みを意識して行うことの意義が明らかとなった分科会であった。



第八分科会

テーマ 【公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割】

発表者

①三島市立青木保育園

園長 中村せつ子

②藤枝市立前島保育園

園長 稲森 弘子

藤枝市立岡部みわ保育園

園長 岩崎 雅子

③浜松市立佐鳴台保育園

園長 山崎 美芽

浜松市立引佐保育園

園長 和久田寿美子

議長

静岡市立飯田南こども園

園長 望月 裕美

助言者

東海大学短期大学部

非常勤講師 杉山 静子

記録者

静岡市こども園課(葵待機児童園)

園長 半田 明美

発表(一)公立保育園の使命と地域社会での役割

子どもを地域社会と共に育てる連携

以前から行ってきた園庭開放の利用者が年々減ってきた為、子育て状況やどのようなニーズがあるのかアンケート調査を行い園庭開放事業の見直しをした。独自のホームページを作成し、地域に向けた情報発信及び情報提供を行い、園庭開放に園全体で取組むようにした。又、地域コミュニティ連絡会に参加

し、それぞれの校区において情報発信をしていった。この取組みにより参加人数が増え大きな成果を上げることができた。引き続き園庭開放における研修を深めていきたい。

発表(二) 公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割

子どもを取り巻く環境から考える

四年前から『発達教育事業』として成長発達に支援を必要とする子ども達への取組みを行っている。実践内容の中にある「ムーブメント活動」は、あそびを通して身体を動かしながら様々な機能を育てる等子どもの発達を総合的に高めるものである。この取組みから子どもを取り巻く環境を振り返り、成長発達に支援を要する子どもと現代の厳しい環境の中にいる子どもへの対応の共通点に気づいた。今後も充実した保育の提供・地域への発信を進めていきたい。

発表(三)公立保育園の使命と地域社会での役割

必要とされる子育て支援の

拠点としてのあり方について

保護者支援を必要とする現状から公立保育園の役割について検討し、保育所や親子ひろば利用家庭等からアンケートをとり、支援方法を考えた。保育相談支援の実践記録をとり分析し、保護者支援に意識して取組みレベルアップを目指したり、「子育ての悩みに対するアドバイザーやヒント」をカード化し自由に持ち帰れるようにした。又、基幹的職員を育

成し障害児保育の充実を図っている。今後も、新たなニーズに応えられるような支援を考え、子育て支援の拠点となっていきたい。

助言者より

様々な主体の保育園が設置される中、公立保育園はより法に遵守し、地域の中で保育の質やニーズへの対応等先駆的なことをやっていく必要があると共に、地域での隙間を埋めていくような(発達の遅れのみられる子、虐待の疑い・園に來れない・支援事業にも行かない家庭等)役割がある。それらが今後の研修の方向性になっていくのだと思う。公立保育園の厳しい業務の中でも人材育成の方法を工夫していく事や、地域の他の園、機関との連携の方法、様々な情報をいち早くキャッチし、対応の体制を作っていく事が公立保育園の使命であり地域での大きな役割ではないだろうか。



県保育研究大会に参加して

第一分科会

発表された各園とも『新たな時代の保育実践』すべての子どもにむけて』という一つの大きなテーマからサブテーマを決め、各々の園の保育の実践がわかりやすく発表されていた。

様々な事例と共に各園の活動の様子や保育に対する思いが見られ、自分の園と比較して考えることができた。

子ども達一人一人との愛着形成、個々の気持ちに寄り添う保育、発達に合った保育等、保育の基本に戻ることが大切だと感じた。助言者の漁田先生の一言、保育者の気持ちや熱量にプラス学問的な根拠が大切だということ、自分達が日々行っている保育を大切にすることが重要だと感じた。

他の分科会にも参加できれば、他の園の事例が聞けたのではないかと感じた。

稲取保育園 鈴木 匠

第二分科会

三ヶ園の発表を聞き、どの園も気になる子の多様化、保護者に伝える難しさを感じながら

からも専門機関と連携して、問題解決しようとして取り組んでいました。実際に私のクラスにも診断名はつかないが、気になる子がいる為、助言者の先生のアドバイスも含めてとても勉強になり、課題を見つける事が出来ました。私たち保育士は保護者の味方であることを伝え、保護者の不安な気持ちと同じ立場になって未来を見据えて今どうすれば良いかを一緒に考えていく必要があります。なかなか会議をする時間をつくるのは難しいですが、その子の配慮について全職員で考え、様々な専門機関を色分けして利用していきたいと思います。

ヘリオスプレスクール 大石 沙季

第三分科会

『保育者の資質向上を図る』を聞いて

第三分科会では『保育者の資質向上を図る』というテーマで、発表者の各園における取り組みを聞きました。様々な取り組みを聞く中で特に印象に残ったことは、身近な自然との関わりやネイチャーゲームを活かした保育実践についてです。自然に触れた子どもから発せられる一言によく耳を傾け、そこから保育士の声掛けや援助で子どもの遊びが広がって

いくことに共感しました。幸いにも自園の周辺にも自然がたくさんあり、保育の中でもこの関わりを取り入れていますが、日々の保育を振り返り、保育士の声掛け・行動の一つひとつの大切さを再認識すると共に、子どもの言葉から内面理解ができる、そんな保育士を目指し保育をしていきたいと思いました。

大井川保育園 増田 智昭

第四分科会

「地域の子育て支援の充実」をテーマにした三園の実践報告を聴きました。どの園も保護者や在宅の親子の要望や悩みを把握し、その園や地域の背景に合った取り組みがなされていきました。その取り組みによって、親子・親同士・園と家庭とのかかわりが深まっているという表れがよくわかりました。

私も自園では、子育て支援センターの担当をしているため、特に在宅の子育て家庭への支援の充実を図る必要性を日頃感じています。当地域の保護者のニーズを把握することから始め、発表園での取り組みも参考に活動を見直し、より信頼関係を深めながら親子に寄り添った活動をしていきたいと思っています。

多賀保育園 井沢 安代

第五分科会

第五分科会に参加し、食育を進めていく上で保育者として大切なことは、まず、なぜ食育をするのか？を理解すること、その上で自らが食の実体験を重ね、食育の面白さを知ること、そして、その中で感じた食育の面白さや感動を子ども達に伝え、食に関わる活動を共に楽しんでいくことだと学んだ。

又、現在第三次食育推進基本計画がスタートし、園において「食べることを通して人と人とのつながりを育てる」ことが求められていることも知った。

今後は、各園の実践を参考にしながら、園と家庭、地域がどうつながり、共に食に関わる活動を楽しむことができるかを考えていきたい。

静岡市立新富町こども園 永野 真実

第六分科会

『子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク』をテーマに、他園で実施されている地域交流や専門機関との連携についてお話を聞き、是非取り入れたいなと感じる事や、保育する上で参考になるお話もあり、改めてネットワークの大切さを学ぶことができました。

その地域の自然環境を利用した活動や、気になる子に対する専門機関、保護者との連携は子どもの成長にとって大切な支援なのだと感じました。又、支援する上で保育者はしっかりとねらいを持つ事が大事であることを再認識しました。

助言者・田中浩之さんのお話の中に「知ることは感じることの半分も重要でない」という言葉がありました。体験こそが子ども達にとって一番の教材であるのだという事を聞き、今しかできない体験をたくさん活動に取り入れていきたいなと思いました。

あゆみ保育園 黒田 沙依

第七分科会

保育園の営みとは、園が単独的に存在しているのではなく、周辺地域の方々の理解と協力や、様々な交流の積み重ねによって成り立っていることを強く感じられました。

保育園の営みを発信する場合や、地域交流を図る際には、保育園側も地域社会側も一方通行にならないようにし、両者の求め合う内容ができるだけ合致できるように広い視野と考え方も備えるべきであると感じました。

各地域や園によつてのニーズは多様にあります。そのため私たち保育園の職員は、日々の振り返りを大切にし、保育の質が向上でき

るように努め、地域で身近に利用できる子育て支援の、拠点的存在になるという意識を持ち合わせていく必要性を感じました。

袋井八〇一保育園 長岡 壽代

第八分科会

今回の研究発表を聞かせて頂いた中で、特に印象深かった言葉は「園庭開放」についてです。自園は、園児数が三〇〇人を超えるマンモス園ということと、園庭の広さにゆとりがなく、他園で行われているような園庭開放をしていません。行っている園のお話を聞いたところ、地域の未就園児を、毎日、あるいは週一回、園児と一緒に園庭などで遊ぶことで、園の良さを知ってもらったり地域の方（親同士）とのコミュニケーションが取れたりするということでした。とてもよい事業だと感じた反面、そういう場に足を運ばない親子への支援や、今後、自園のようなマンモス園が増えていく中で、公立保育園として、どのようなことができるのかを改めて考えていく必要があると感じました。

掛川市立乳幼児センターすこやか保育園部
宮内 優子

新規採用予定職員研修会

東部支部

月日 平成二十八年二月二十四日～二十五日
会場 三島市 箱根の里少年自然の家
参加者 五六名

東部支部では、三島市箱根少年自然の家で五六名の参加者で行いました。

開会式終了後すぐに野外活動のポイントラリーを行い、昼食は飯盒炊飯でカレーを作りました。野外活動、飯盒炊飯という協同活動で、班の仲間とのコミュニケーションも深まり、活動にまとまりができました。

一日目の講義は「社会人として一番大切なこと」と題してアップハート代表勝又ひで子先生より接遇とマナーの基本を教えてくださいました。

また、夕食後に行われた交流会の「室内オリンピック」では、実行委員によるお楽しみのおと、研修生は生き生きとした表情で競技に取り組みました。

二日目の講義は「保育園にとって一番大切なこと」を県保育所連合会内藤栄一副会長、「保育士にとって一番大切なこと」を県保育士会吉川慶子副会長よりそれぞれ保育園、保育士の使命と役割、職員としての基礎知識を教えてくださいました。

そして、

「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」

をNPO法人浜松こどもとメディア

アリテラシ

ー研究所代表長澤弘子

先生より、

近年問題になっ

ているSNS利用

時の倫理観

や危険性を

わかりやすく

教えてくださいました。

最後に「現場からのアドバース」(保育の

楽しさを知ろう)と題して、ワークショップ

を行いました。グループでの活発な討議や、

実行委員の先生方のアドバイスを真剣に耳を

傾けていました。

この研修を通して改めて社会人になるという自覚を強く感じたことと思います。



社会人として、また、保育所・こども園の職員としての今後の活躍に期待したいと思います。

実行委員長 三島ようらん保育園

加藤徳人

中部支部

月日 平成二十八年二月十六日～十七日
会場 静岡県立 焼津青少年の家
参加者 九五名

まだ寒さの厳しい二月、早朝から焼津駅に新規採用予定者の学生たちが続々と集まってきました。今年も春から就職の決まっている保育士・栄養士の卵達が焼津青少年の家で二日間の研修を行いました。

開講式では焼津駅に一番乗りだった学生がこの研修を受けるにあたっての決意表明をし、早速研修開始です。最初の講義は県保連・中部支部長の神野博行先生より「保育所の使命と役割」をお話しいただき、現在の保育園の現状や少子化問題等についてお話しいただきました。次に県保育士会・中部支部長の海野美代子先生より「保育者としての役割」をお話しいただき、保育士としての心構え等を学びました。

お昼をはさんで午後からはアップハート代表の勝又ひで子氏を招いての「社会人として一番大切なこと」を学びました。この講義では接遇とマナーの基本を学びました。ここで初

日の講義は終
わりました。

この後、「夕
べの集い」、実
行委員の先生
方を交えて
班ごとに「現
場からのアド
バイス」を行
い初日終了で
す。

二日目は
「朝のつどい」
の後、明星保
育園の櫻井英
世先生をお招
きし、手遊び
や体を使った
「実技指導」
を学びました。

そしてその後は藤枝聖マリア保育園元園長
の小林潔先生をお招きしての「全体交流会」
です。この中では決められた班ごとに即席の
出し物をしたり、お互いが協力し学びあいな
がらの講義となりました。

そして昼食をはさみ、最後の講義は小泉亮
子先生の「子どもと絵本」です。この講義で
は絵本についての一般的な知識と絵本の大切
さについて学びました。

今回の研修の中で学生たちより「社会人と
して大切なことを学んだ。厳しさを実感し



た、「これからの目標や心構えができた」、「同
じ職業を選んだ仲間と交流が出来、不安や期
待を共有できた」等々のアンケートの結果を
いただきました。そしてこの研修会の実施に
つきましてご協力いただきました先生方にお
礼申し上げる共に、参加された学生たちのこ
れからの活躍を期待しております。

実行委員 麻機保育園 鈴木克明

西部支部

月日 平成二十八年二月十七日～十九日
会場 静岡県立 三ヶ日青少年の家
参加者 九七名

西部支部では例年通り二泊三日のスケジュ
ールで研修をおこない、百名近い研修生が参
加しました。

一日目。県保育所連合会岡田副会長、県保
育士会下原会長の講義からスタート。保育所
として使命、保育士としての自覚を学び、午
後は三時間近くをかけてオリエンテーリン
グ。班内での親睦、結束力を高め、初日にか
なり深い絆ができたようです。そして夜は「絵
本で子どもの心と手をつなごう」絵本のおも
しろさが改めて伝わりました。

二日目。例年と同じ構成の研修の中で、今
年は、新しくなった「保育のしおり」を使っ
て「保育のしおりを携えて」という講義を入
れました。たぐさんの情報が記載されてお
り、今後も手元においておくことの必要性を

感じたことで
しよう。続け
て現代だから
こそ必要な
「SNS利用
時の倫理感」。
午後はしっか
り体を動かし
ました。そし
て夜は「現場
からのアドバ
イス」二日間
で深まった絆
は、率直な意
見・疑問など
言いやすい環
境を作り、時
間いっぱい
で先輩方から
たぐさんのお
話を聞きました。

三日目。「ビジネスマナーとコミュニケー
ション基礎研修」新人保育士が知っておきた
い「ビジネスマナーとは」二日間の講義を受
けたうえで、これから保育士・保育教諭にな
るといふ自覚が芽生えてからの講義に、研修
生の意識も違ったのではないのでしょうか。社
会人として、保育所・子ども園の職員として
の今後の活躍に期待したいと思います。

実行委員長 掛川こども園 野中 徹



平成二十八年年度

保育士養成校との

意見交換会の概要

日時 平成二十八年六月十六日(木)

一五時～

場所 ホテルプリヴェ静岡ステーション

県保育所連合会の正副会長及び研修委員と保育士養成校一七校との意見交換会が行われました。

1 全体会

(後藤静岡岡県保育所連合会会長より)

今年度は、新規採用職員を対象とした二回の研修会に四一四名と多くが受講したが、反面多くの人が辞めている。

静岡県の離職率は全国に比べ低いが一〇パーセント程度もある。男性は五年以内、女性は一〇年以内に辞めることが多い。長く勤めることができる職場であることが大切と考えている。

(下原静岡岡県保育士会会長より)

職場の人間関係、勤務条件、労働環境に気を付け、若者の仕事に対す夢を壊さないよう配慮している。職場の側の努力が大切と考えている。

(柿澤静岡岡県社会福祉人材センター課長より)

平成二八年度「しずおか保育の仕事」説明会と保育士修学資金について説明。

2 分科会(東部・中部・西部地域での発言のまとめ)

(養成校参加者からの発言)

○就職先について

- ・卒業生のほとんどが保育職として就職する学校と約四〇パーセントが一般企業等に就職している学校と就職先の差が大きい。
- ・一般企業に就職するのは、早く決めたいという焦りもあるが、給与条件、特に男子学生は将来(結婚)への不安がある。
- ・学生の希望は多様化している。
- ・四年間幅広く学習した結果、進路は変わることはある。これは学生が進歩したといえる。

・学生は、就職先の人間関係を重視しているが、人間関係が「怖い」という言葉で表現される。ものが言いやすいかどうかということが大きく影響しているようだ。

- ・九月頃株式会社からも求人がある。
- ・保育職か、一般職か悩んだり、福祉施設にも就職を目指す学生がいる。
- ・就職の判断基準としては、人間関係、休日の取得、産休・育休の実績、キャリア志向がある場合はベテランの存在を望むケースもある。
- ・五月の就職説明会で話を聞いて興味を持ち選ぶことが多い。

○学生について

- ・教員と学生と感覚が違う、こちらの常識が通じない時がある。
- ・挨拶、掃除の仕方、電話の掛け方、封筒の

書き方など、保育以外の指導の必要性を感じる。

・子どもとのあそびがわからない学生がいるため、遊び方も教えている。

・実習の時点で人間関係、学んだ内容との違いに不安を覚える。

・言葉をそのまま受け取り、裏側が分からない学生、周囲の目を気にしすぎ動けない学生、

字を書くことに大きな困難を抱えている学生もいる。

・褒めるばかりではなく、叱つても良いと思う。叱られたことは期待であり、伸びしろである。しかし、あまり褒めすぎると、現場でつまづいた時に立ち直れるか不安。

・地元の行事など、子ども、障害者などに関わる学生もいる。

○実習について

・幼保連携型こども園で実習を行っているが、経営者の出身母体により幼稚園は教育、保育所は養護などと重視する点が異なる。



・一回目の実習で自信を無くしたり、迷ってしまう学生もいる。

・実習で褒められたことは嬉しく話すし、実習の評価を気にする。

・何度も直しを受けながらも最終的に認められた、苦勞して身に着けた体験は強く残る。

・エピソード記述に注力。

・実習の巡回に行くと、自分を發揮できない学生が多い。

・周囲の保育士からの声掛けを喜ぶ学生が多い。

○養成校の対応

・離職をしない指導を行っている。

・短大は二年で学ぶので、自意識を高めるように指導している。

・他人の話ではなく、自分で見て、選択するように伝えている。

・監査前の書き物、ピアノなどに苦勞していることを報告に来る卒業生もいる。

・自主実習やボランティアに行くように指導している。

・様々な園がある事は伝えている。

・実習を振り返り、丁寧な話しを聞いている。

○募集について

・職安に登録しても応募がない。

・計画的な採用が難しいのが現状。

・派遣会社を通じての就職活動は、契約金など保育所にとってリスクが大きく受け入れないことにしている。

○施設側の対応

・離職防止のため、労働条件や職場環境の改善に努力している。

・実習に来た学生を採用できるよう努めている。

・採用の際には本人の希望に沿うように配慮している。

・実習生には声を掛けるよう努めている。

○学生に伝えて欲しいこと

・園によって環境はさまざまであるため、実習を受けた園がたまたま合わなくても他の園に就職して欲しい。

・保育の魅力を見つけて欲しい。

・学校で社会保険料等が控除されている制度について学生に教えて欲しい。

・給料人材派遣、人材紹介の会社から新卒の学生の紹介がある。システムを分からずに、安易に登録している学生がいるのではない

か。自分にとって良い職場の選択を自ら放棄してしまっていることに気づいていないのではないか。

○職員について

・長く勤められる人の特徴は、働くことをイメージできている人、どんな仕事をしたいか、どんな人になりたいか。

○その他

・幼稚園免許の更新が狭き門となっており皆が更新できるように協力をお願いしたい。

・今回話を聞いて、保育士、金の卵をつぶしてしまっている恐れがあると感じた。

・完成している人材を求めているわけではない。

い、お互いに育ち合うことが重要だと感じている。

・新人を育てながら中堅も成長していく。

(隣の養成校から)

・静岡県は神奈川県と比べ求人の方が遅く、学生は不安感がある。(小田原短期大学)

・最近では静岡の学生は少ない。(岡崎女子大学、岡崎短期大学)

・静岡の学生は二割程度。(豊橋創造大学短期大学部)

・保育のニーズが

今年も多く、学生が不安に感じている。

・幼稚園団

体が学生向けに説明に来学したが、一人担任、給与、産休・育休、残業代など、働き方の質問が多かった。

・一年目の離職はほとんどないが三年経過すると増加してくる。

・離職後相談に来てほしいし、力になりたい。

また、潜在保育士の掘り起こしの要請が多いため、学校でもシステム作りを目指している。



各研修報告

施設長研修会

期日 平成二十八年二月二十七日(水)
会場 清水テルサ

平成二十七年施設長研修会が清水テルサ一階テルサホールにて三百四名の参加で開催されました。

研修内容として三つの講義がありました。

講義①は、『保育施設におけるリスク・マネジメント』と題し、子どもを守るために安全を見直す」と題し、NPO法人保育の安全研究・教育センター代表理事の掛札逸美氏にご講演いただきました。体全体を使ったエネルギーなパフォーマンスと動画を使った「見えているつもりで見えていない」テストは印象的でした。

講義②は、保育所連合会の後藤弘明会長に『保育情勢報告』として、政府の施策である女性就業率のアップやそのための保育の受け皿の推進策、保育人材確保のための様々な施策について説明いただきました。

講義③は、『子どもの創造的想像力を育てる保育者の役割』と題し、十文字学園女子大学特任教授の内田伸子氏にご講演いただきました。「想像力の発達、Ⅱ学力格差は幼児期から始まるか Ⅲ子ども中心の保育・共有型の保育」の三つの柱で発達心理学の専門的観点からことの獲得や、子どもの会話を事例に挙げ、より具体的なことばかけや保育者としての援助の仕方を学びました。

新規採用職員研修会

期日 平成二十八年六月九日(木)
会場 静岡音楽館AOI

平成二十八年年度新規採用職員研修会は、百四十七名の参加で開催されました。

最初の講義は、静岡県保育所連合会の後藤弘明会長より「保育所等の使命と役割」と題し、現在の待機児童問題とこれからの人口減少社会について私たち保育所、認定こども園の置かれている現状から、子ども子育て支援制度の説明も加えながら、保育所、こども園と職員に求められる使命と役割について、現場に則した具体的な内容でお話しいただきました。

次の講義は、静岡県保育士会の下原直美会長より「保育者としての役割と責務」と題し、子どもの最善の利益という観点からお話しいただきました。また配布された保育のしおりに沿って全国保育士会倫理要領の音読をしながら保育士としての役割と責務を具体的に説明いただきました。

最後の講義は、小田原短期大学学長の小沼肇氏より「新人保育者の責任とプライドー責任重大!!かわいい子どもたちの人生がー」と題し、新聞記事から読み取れる子どもたちの心情理解や、子どもたちの求める保育士とは何かを自分に置き換えて考察しました。

グループ討議では、現場での二ヶ月の保育を通して悩みや意見交換など活発な情報交換の場となりました。

青年部会総会・シンポジウム

期日 平成二十八年六月三日(金)
会場 静岡音楽館AOI

「新たな制度で変わったこと。変わらなかったこと。」をテーマに昨年引き続き中村章啓先生進行の元、シンポジウム形式で開催されました。

東部・三島ようらん保育園加藤徳人先生からは、「あそびと環境」を軸にこども主体の保育を追求し、職員間で視察や園内研修を繰り返しながら思考イメージの共有をし研究を進め、研究発表や振り返りを通して保育者の意識づけと園の質を高めることに取り組んできたことが報告されました。中部・竜南保育園太田嶋俊彦先生からは、「子どもを大切に、家庭を大切に、地域を大切に」の理念のもと、地域に根ざした従来の支援事業に加えポイントカードを取り入れるなどの取り組みも紹介され、これまで足を運ばなかった方々にも来ていただけるような工夫をしながら子育て支援の充実などを図り、積極的に社会に情報発信していくことの重要性が話されました。西部・ひくまこども園山田佳敬先生からは、こども園への移行の中で、「保育目標内容を変えない、保育の質の向上を図ることを変えない、しかし理念に合わないものは変えていく」を柱に、一人のスーパー保育士誕生ではなく関わる全ての人々が輝くためにマニュアルを創り、丁寧に説明し理解度を確認しながら保育の統一を図ってきたことが話されました。

研修委員会

委員長 掛川こども園 野中 徹

本年度上期に開催の所長研修会と新規採用職員研修会も盛会のうちに終了致しました。皆様のご協力に感謝致します。又、ほいく静岡の各研修報告のページをご覧ください。当委員会では、いよいよ二年目に突入した新制度を様々な角度より見つめられるよう、幅広い分野から講師を招聘し、充実した研修会の企画・運営に努めます。下期の研修会は次の通りです。

○民間園長研修会

平成二十八年十月二十七日～二十八日
焼津グランドホテル

○育児相談研修会

①中部地区

平成二十八年十一月四日(金)

静岡音楽館A O I

②西部地区

平成二十八年十一月十七日(木)

浜松アクトシテイ

③東部地区

平成二十八年十一月二十五日(金)

沼津市民文化センター

○施設長研修会

平成二十九年一月二十六日(木)

清水テルサ

○新規採用予定職員研修会

平成二十九年二月中旬から下旬

(会場は各支部の研修会場にて)

予算対策委員会

委員長 緑ヶ丘保育園 内藤栄一

子どもを持つ家庭の深刻化する子育てへの不安や孤独感、養育力の低下、虐待といった課題に対し、私たち保育所連合会は、保育所・認定こども園の持つ機能・能力を発揮し、多様な保育サービスを提供し、子どもの最善の利益を守るための努力をしているところですが、さらに質の高い保育の提供と、子ども達の安全と健やかな成長を保障し、心豊かな次世代を育成していくという使命達成のため、保育所・認定こども園がより一層充実した保育を展開できるように、次の五項目を静岡県に対して要望します。

- ① 食育の充実と推進について
- ② 乳幼児保育事業の充実について
- ③ 年度途中入所サポート事業の継続について
- ④ 東海地震等大震災に対する安心・安全な施設の充実について
- ⑤ 産休等代替職員雇上事業の充実について

加えて、保育三団体(全国保育協議会、日本保育協会、全国私立保育園連盟)の予算対策活動に参画し、国に対して要望をしていきます。

海外交流委員会・少子化等問題検討委員会

委員長 緑ヶ丘保育園 内藤栄一

(海外交流委員会)

今年度は、過去二十回の海外交流研修の中で、最も人気の高かったハワイでの研修を九年ぶりに開催する予定です。

アメリカ合衆国の五十番目の州であるハワイ州は、日本からの移民も多く、身近に感じられますが紛れもなくアメリカです。アメリカの幼児教育や文化に触れ、見聞を広めると共に、仲間との親睦を深める研修内容と致します。

八月初旬に募集要項を委託旅行業者から発送しますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。

(少子化等問題検討委員会)

保育所・認定こども園利用者以外に、子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費(一事業五万円)を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。この助成金を活用したい団体は、各支部事務局に御連絡下さい。

また、財源となります協力金へのご支援も合わせてお願い致します。本年度の啓発品としては「クリアファイル」を作成する予定です。

各支部だより

東部支部

支部長 緑ヶ丘保育園 内藤栄一

- 一、総会及び施設長研修会
期日 平成二十八年五月十九日(木)
会場 沼津市民文化センター 大会議室
講師 三島警察署生活安全課 課長 萩原宏彦氏
内容 「ネット犯罪や
オレオレ詐欺にあわないために」
- 二、中堅保育者研修会
期日 平成二十八年八月三十日(火)
〳三十一日(水)
会場 三島市箱根の里少年自然の家
- 三、保育の日研修会
期日 平成二十八年十月十五日(土)
会場 富士ロゼシアター
- 四、民間部会県外施設視察研修
期日 平成二十九年一月一八日(水)
〳一九日(木)
視察先 未定
- 五、行政部会研修
期日・会場 未定
- 六、青年部会研修
期日・会場 未定
- 七、新規採用予定職員研修会
期日 平成二十九年二月下旬
会場 三島市箱根の里少年自然の家
- 八、家庭における読み聞かせ活動の普及

中部支部

支部長 ゆりかご保育園 神野博行

- 一、総会及び施設長研修会
期日 平成二十八年五月十三日(金)
場所 静岡県総合社会福祉会館
講師 白梅学園大学学長 汐見稔幸氏
演題 「認定こども園の現状と今後の展望」
- 二、中堅保育士等研修会
期日 平成二十八年九月十六日(金)
場所 静岡音楽館AOI講堂
講師 あおぞらキンダーガーデン園長 岡村由紀子氏
演題 「育ちにかかわる」
〳気になる子を含む
保育創造のために」
- 三、保育所職員等研修会
期日 平成二十八年十二月十四日(水)
場所 ふじのくに地球環境史ミュージアム
講師 高山准教授、坂田静大講師
- 四、新規採用予定職員研修会
期日 平成二十九年二月十四日〳十五日
場所 静岡県立焼津青少年の家
- 五、各地区事業
各地区ごとの事業計画に基づいて実施

西部支部

支部長 ルンビニ保育園 岡田泰稔

- 一、総会及び施設長研修会
期日 平成二十八年五月十七日(火)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 浜松学院大学 准教授 名倉一美氏
- 二、中堅職員研修会
期日 平成二十八年六月二十九日(水)
場所 浜松フラワーパーク
講師 浜松フラワーパーク理事長 塚本こなみ氏
- 三、男性職員交流研修会
期日 平成二十八年八月五日(金)
場所 クリエート浜松
講師 すみだ川のほとりに笑顔咲く保育園 園長 菊地政隆氏
- 四、初任職員研修会
期日 平成二十八年九月十六日(金)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 (有)オーツスリー 佐藤弘道氏
- 五、小児医療研修会
期日 平成二十八年十月十九日(水)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 和洋女子大学 教授 鈴木みゆき氏
- 六、新規採用予定職員研修会
期日 平成二十九年二月十五日〳十七日
場所 静岡県立三ヶ日青年の家

スマートフォン適応
画面を標準装備!

手軽に簡単更新 PassTell Blog
パステルブログ

22年間、1,000以上の実績!

ホームページ制作



専門的な知識がなくても、ホームページを手軽に更新でき、情報を必要な時にリアルタイムに配信できます。また、保護者世代の約7割が利用しているスマホ画面を標準装備。今ならホームページ運営に役立つ小冊子を先着20名様にプレゼント!

クラウド型
園児管理システム

パステル Apps

園児情報を安全に一元管理

業務の負担を軽減



園児・保護者・職員の基本情報を元に、メール配信など複数の業務を一元管理。まもなく登場する登降園管理では保護者が送迎時に打刻でき、延長分の集計も行えます。筑波大学と共同開発した園児の発達支援ツールとも連携。30日間無料体験あり。

問合せ ☎054-626-8888 パステルIT新聞事務局 <http://passtell.jp/>

さまざまな危険からお子さまをお守りする

『園児総合保障共済制度』



AIU保険
Member of AIG

キッズカード (こども総合保険)

AIU損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか予想もつかない事故の、確かな“まもり”として本制度をお届けいたしております。

静岡支店 〒422-8067 静岡市駿河区南町14-1
水の森ビル5階
☎: 054-284-2781
浜松支店 〒430-0935 浜松市中区伝馬町312-32
浜松シティビル5階
☎: 053-454-0321
沼津支店 〒410-0801 沼津市大手町3-8-25 7階
☎: 055-963-8081



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 ジャクエツ

保育士の人材紹介・派遣

アスカグループ

保育士求人ポータルサイト

保育情報どっどこむ

くわしくはwebで

検索



東京・横浜・相模原・八王子・大宮・宇都宮・高崎
つくば・新潟・大阪・福岡・広島・名古屋



誕生!!



東武トップツアーズ

2015年4月1日

トップツアー株式会社は東武トラベル株式会社と合併し

「東武トップツアーズ株式会社」として生まれ変わりました

東武トップツアーズ株式会社静岡支店

〒420-0859 静岡市葵区栄町3-1

あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10階

TEL:054-255-1919 / FAX:054-252-9509

こどもの笑顔がみたいから

安心・安全な
保育園用おやつ



全国の保育園から
お使い頂いています



株式会社サンワールド

<静岡支店> 〒421-0121 静岡市駿河区広野2-10-17

TEL054-256-6332 <http://www.sunworld-honsha.co.jp>

社会福祉法人支援システム「創・ゆとり」シリーズ

保育所「ICT化推進補助金」対応！

保育所事務処理の“作業効率化・正確化”を応援します！

園-SiEN(支援)

園児の記録を統合管理します
出席簿・保育日誌・週案・月案等を、
現在ご利用中の書式でデータ管理
できます！

財務会計2016

「新会計基準」準拠！
シンプルに使いやすく、予算～仕訳
～決算まで安心の、財務会計システ
ムです

給与計算2016

「給与実務カレンダー」「職員一覧入
力画面」等、便利な機能を追加して
生まれ変わった、給与計算システ
ムです



ISO9001・ISO27001認証 ITインテグレーター

株式会社 **ユニテック**

〒420-0911 静岡市葵区瀬名1丁目18-33 ユニテックビル
TEL:054-264-1111 FAX:054-264-7771

ホームページ www.unitec.jp メールアドレス eigyo@unitec.jp



子ども・子育て支援制度対応・ICT補助金対象システム 「PAL ANGEL (パルエンジェル)」

ICカードで簡単操作の登降園管理、園務日誌、保育計画、報告書等、多様化する 保育園の
事務作業をサポートいたします。クラウドサービスで安心です！

園の紹介、情報公開は簡単便利な
ホームページで！
「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバム等が
園のパソコンで簡単に更新できます！

簡単操作のメール配信システム
低価格で多機能！
「チェックインシステム」

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答集計、閲
覧状況、受信状況も把握できます！



株式
会社

データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2
TEL:055-972-7717 FAX:055-976-1057

<http://www.dataeast.co.jp> E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp



御殿場市 双葉保育園 勝又秀文
まだまだ慣れない編集作業ですが
がんばります。

函南町 函南さくら保育園 田中千佳子
初めての広報委員です。次回号も
頑張ります。

沼津市 原町保育園 鶴谷由美子
みなさんに支えられて何とかできました。

静岡市 月影保育園 浅井哲朗
暑さにまげず、編集がんばりました。

静岡市 相生保育園 吉野恵人
暑い毎日の中、やっと完成となりました。おつ
かれさまでした。

静岡市 麻機保育園 鈴木克明
冷や汗をかきながら一生けん命やりました。

静岡市 ゆりかご保育園 神野博行
次回の一月号も楽しみにして下さい。

静岡市 あいわ保育園 増田俊一
前略 「ほいく静岡78号」の編集が無事終了し
ました。 草々

浜松市 入野こども園 中村勝彦
今回も「ほいく静岡」の編集が楽しくできまし
た。

袋井市 袋井ハロー保育園 鈴木 康
さわやかに楽しく編集させて頂きました。暑さ
に負けずに頑張ります。

湖西市 真愛保育園 松浦弘太郎
細く長くがんばります。

わんぱくひろば



「ほいく静岡」原稿写真募集中

保育実践・研究の紹介や育児相談・講座の紹介など奮ってご寄稿下さい。
ホームページ：www.hoiku-shizuoka.org

✉ 投稿先 静岡県保育所連合会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番70号

TEL / FAX : 054-251-8873